

ソニー教育財団 2020年度「教育・保育実践論文」 入選校・入選園発表 教育助成金とソニー製品を贈呈

ソニー教育財団（会長：盛田 昌夫）は、全国の小学校・中学校、幼稚園・保育所・認定こども園から教育・保育実践論文を募集し、特に優れた取り組みに、教育助成金とソニー製品を贈呈しています。今年度は、感染症対策の徹底など、教育・保育現場は過去に例を見ない状況下でしたが、そのような中でも、子どもたちのために授業・保育実践の研究を続ける熱意ある先生方から、たくさんのご応募をいただきました（小・中学校より177件、幼稚園・保育所・認定こども園より136件、合計313件）。

書類審査に加え、毎年実施していた現地調査に代わる「オンラインインタビューと授業・保育実践を記録したビデオによる最終審査」を実施し、下記の通り入選校・入選園が決定いたしました。

ソニー創業者の井深大は戦後間もない頃に「日本の発展には子どもたちの科学教育こそ重要」だと考え、ソニーの事業がようやく軌道に乗りだした1959年に、小学校への教育助成活動を始めました。ソニー教育財団はその信念に基づき、よりよい教育の実践に真摯に取り組み、さまざまな課題を教育を通じて解決しようと新たなチャレンジを続ける全国の先生方を支援してまいります。

2020年度 ソニー子ども科学教育プログラム入選校・ソニー幼児教育支援プログラム入選園

対象：小学校・中学校 テーマ：「科学が好きな子どもを育てる」教育実践と計画
審査委員長：御手洗 康 元文部科学事務次官

■最優秀校（2校）：教育助成金300万円とソニー製品（※）

学校名	論文テーマ
千葉大学教育学部附属 小学校（千葉県）	科学が好きな子どもの育成
旭市立干潟中学校 （千葉県）	科学が好きな子どもを育てる「原点とは何か？」

- ・優秀校（12校）：教育助成金50万円とソニー製品（※）
- ・奨励校（74校）：教育助成金10万円とソニー製「デジタルスチルカメラ（1台）」



旭市立干潟中学校の実践

対象：幼稚園・保育所・認定こども園 テーマ：「科学する心を育てる」幼児教育実践と方向性
審査委員長：小泉 英明 （株）日立製作所 名誉フェロー

■最優秀園（2園）：教育助成金200万円とソニー製品（※）

園名	論文テーマ
学校法人仙台みどり学園 やかまし村（宮城県）	身近な生き物との日々の出会いの中で紡ぎだされる科学する心の芽生えとは
世田谷区立希望丘保育園 （東京都）	虫のようにしなやかに野草のようにたくましい心を育てる

- ・審査委員特別賞（1園） 優秀園（7園）：教育助成金30万円とソニー製品（※）
- ・優良園（13園）：教育助成金10万円とソニー製「CDラジカセ（1台）」
- ・奨励園（47園）：教育助成金5万円とソニー製「CDラジカセ（1台）」



世田谷区立希望丘保育園の実践

※ソニー製品：「4K液晶テレビ」、「データプロジェクター」、「4Kビデオカメラ」、「デジタルスチルカメラ」、「KOOV（2セット）」「MESH（7タグを3セット）」から1つをお選びいただけます。
また、受賞にかかわらず、ご応募いただいた全ての学校・園に「デジタルスチルカメラ」、「CDラジカセ（Bluetooth対応）」などからご希望のソニー製品を1台贈呈します。

入選した学校名・園名は、ソニー教育財団のウェブサイトをご覧ください。
ソニー教育財団「教育助成」：<https://www.sony-ef.or.jp/program/>

最優秀校・最優秀園 審査講評

入選論文（PDF）はウェブサイトでお読みいただけます。

ソニー教育財団「教育助成」：<https://www.sony-ef.or.jp/program/>

最優秀校

■ 国立大学法人千葉大学教育学部附属小学校（千葉県）

科学が好きな子どもの育成

「科学が好きな子ども」像を「不思議を納得するまで追究し続ける子」と単純化し、子どもたちの科学への探究心を大切にしたい研究構想の3つの柱が、実践論文の中で子どもの姿を通して具体的に分かりやすく記述されていました。どの授業も、問題の発見、実験観察、課題の共有、対話、既習事項の活用、実際生活との結びつきなど多様な観点に留意し、各単元の本質を理解した優れた授業構成であり、単なる知識・理解にとどまらない授業となっています。「情報配信」も、子どもたちの「不思議」を誘発し、発見・追究させるという明確なねらいの下に行われており、環境整備にも努めています。休校等に対応した家庭でのオンライン授業による新しい学びの形への挑戦も優れた実践であり、先進的で提案性がある内容です。

■ 旭市立干潟中学校（千葉県）

科学が好きな子どもを育てる「原点とは何か？」～本当に理科が好きな子どもを目指して～

地域の自然や環境を活かした理科教育の充実に取り組み、着実に実践を広げ深め、目指す「科学が好きな子ども」の姿に迫る研究を継続されてきました。授業の構成も研究主題に即してしっかりと立てられており、実験器材も手作りで用意して「一人一実験」を行わせたり、体験を通して観察させるなど、生徒が主体的に学習に取り組んでおり、考えを発表・表現したり、振り返りの場面でのノート記述などによって考察を深めさせるなど、「感性」と「挑戦心」を養い、観察力を高める優れた実践となっています。「干潟中気象プロジェクト」は観察力を高め、主体的・協働的な探究活動として大変魅力的な授業構想です。

最優秀園

■ 学校法人仙台みどり学園 幼保連携型認定こども園 やかまし村（宮城県）

身近な生き物との日々のお会いの中で紡ぎだされる科学する心の芽生えとは ～このさかなはなんというさかな？けやきのもり水族館日誌から～

子どもたちが外来種との出会いを通して、「命」と真摯に向き合い、教育目標のひとつでもある“自分も地球の中のひとつ”と感じながら、思いやりや人生の智慧を身につけられることを大切に、保育されたことが論文から読み取れます。保育者自身もわからないことに遭遇しながらも、子どもと共に悩み、地域の方の知恵を借りながら保育にかえしていく姿など、子どもの声、言葉を聞き、興味をもったことへの探求、「もっと知りたい」を深く追求していくことの面白さ、楽しさが伝わっていかれることを大切に取り組まれています。科学や倫理の本質にせまる実践が、これからの保育・教育を支える上で、きわめて重要であると高く評価されました。

■ 世田谷区立希望丘保育園（東京都）

虫のようにしなやかに野草のようにたくましい心を育てる ～のっばらプロジェクトの取り組み～

「科学する心」は直接の体験から育まれると想定して、子どもが自由に自然と触れ合う機会がもてるように、「のっばらプロジェクト」と題し、園庭の一部に新たに野原をつくるという活動に取り組まれました。子どもと相談して構想を描き、集まって欲しい生き物のためには、何を植えたらいいのかからスタートした子ども主体の活動は、園全体の取り組みに広がりました。0歳児から5歳児まで、さまざまな自然との出会いが、子どもを介して広がっている点でも、大変有意義な実践といえます。追求の深さがある事例は他にない独創性があり、豊かな自然環境を子どもが主体となって創造することが、豊かな経験につながるという、まさに実体験が「科学する心を育てる」肝であることが伝わる論文として高く評価されました。

■ソニー創業者 井深 大と教育助成について

ソニーの創業者である井深 大は、戦後間もない日本において、科学技術の振興こそが国の発展に繋がると考え、次世代を担う子どもたちへの理科教育に多大な関心を抱いていました。日本初のトランジスタラジオを発売し、会社経営が軌道に乗り始めたのを機に、1959年に「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈を始めました。ソニーの教育助成活動の始まりです。

この事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立しました。その後、井深大の理念を引き継いだ教育助成活動は対象を中学校にも広げ、子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展。60年以上にわたり、創造的で先進的な取り組みを行う全国の学校、先生方を支援してきました。

一方で、井深大の関心は幼児教育にも広がり、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立しました。幼児期の豊かな感性と創造性の育成を目指し、2002年から幼稚園・保育所・認定こども園を対象にした「ソニー幼児教育支援プログラム」を開始しました。2011年に「公益財団法人 ソニー教育財団」となり、乳幼児期から中学生までの「科学する心を育てる」こと、「科学が好きな子どもを育てる」ことを柱にした教育助成を行っています。

教育助成の他、“自然に学ぶ”をテーマに探究する小・中学生対象の「科学の泉－子ども夢教室」、親子の絆を育む「科学する心”を見つけよう フォトコンテスト」など、未来を生きる子どもたちへのさまざまな支援活動を行っています。



ソニー創業者 井深大

■ソニー教育財団のあゆみ

- 1959 「ソニー小学校理科教育振興資金」開始
- 1963 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」結成
- 1969 「財団法人 幼児開発協会」設立
- 1972 「財団法人 ソニー教育振興財団」設立（井深大理事長）
- 2001 「ソニー教育資金」を改称し「ソニー子ども科学教育プログラム」開始
「ソニー教育振興財団」と「幼児開発協会」を統合し、「財団法人 ソニー教育財団」となる
- 2002 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」を改組し、「ソニー科学教育研究会（SSTA）」発足
「ソニー幼児教育支援プログラム」開始
- 2011 「公益財団法人 ソニー教育財団」に移行
- 2019 教育助成開始から 60 周年を迎える

<報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川 4-2-1
TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035 (担当 山下)